

線の西条駅前を中心とした西条駅前土地区画整理事業に伴うもので、

今回木簡が出土した第一次調査A調査区は、西国街道から見るとかなり奥までおり、町屋跡の推定範囲からは外れている。実際、掘立柱建物や池などが見つかっているが、遺構の数も少なく、江戸時代の遺構・遺物はほとんど出土していない。

木簡は、井戸（SE2）から一点のみ出土した。この井戸は、上層から出土した遺物から、中世には埋まつたものと考えられる。

8 木簡の釀文・内容

(1) 

(269) × 39 × 6 019

上端は圭頭、下部は欠損している。内容は、文頭に不動明王を表わす梵字の種子「カーン」と不明の梵字を配し、以下「国」がかるうじて読めるが、判読困難な文字が続く。

長期間風雨にさらされていたためか風食が著しく、墨の痕跡はほとんどない状態で、文字の部分が浮き上がつて見える。

(立川敏之)



(海田市・竹原)

広島・下上戸遺跡

しもうわど

所在地 広島県東広島市西条町御園字・助実

1 所在地 広島県東広島市西条町御園字・助実
2 調査期間 一九九九年（平11）二月

3 発掘機関 勝東広島市教育文化振興事業団
4 調査担当者 吉野健志

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代中期後半、平安時代末～鎌倉時代、室町

時代後半～戦国時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

東広島市は、広島県南部のほぼ中央、標高二〇〇～三〇〇mの賀

茂台地上に位置しており、

その中にある西条盆地は安

芸地域最大の平地部を持つ。

下戸遺跡は、西条盆地

中央に島状に点在する低丘

陵の南側裾部に位置し、店

舗建設のため、遺跡の一部

三六〇m²を調査した。遺跡

は弥生時代、鎌倉時代、室

町・戦国時代の複合遺跡で、中心は室町・戦国時代の集落である。室町・戦国時代の遺構は、五間×二間以上の総柱建物及びそれに付属すると考えられる一間×一間の掘立柱建物・水溜め状遺構・素掘りの井戸などである。遺物は量的には少ないが、土師質土器のほか、水溜め状遺構から漆器碗や銅製の筆筒の引手が出土している。木簡は素掘りの井戸から二点が出土している。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 南無水神天王 (286)×31×3.5 061
 (梵字)
 □急々如律令
 (梵字)
 □
 (2) (201)×33×3 061

(2)は、下部を斜めに削ってやや尖らせてある。上部は折損しており、もとの形状は不明であるが、大きさなどは(1)とよく似ている。表側には梵字のほかに「急々如律令」の文字が読め、何らかの祭祀に関連したものと思われる。遺構内での出土位置は、ほぼ底面であった。
 (吉野健志)

(1)は、ほぼ完形で上部は圭頭、下部は尖らせた形である。井戸からの出土と「南無水神天王」とあることから、井戸に関わる祭祀に伴うものと思われる。墨痕は現状ではまったく確認できないが、風食の結果、文字の痕跡が浮き上がり、ある程度の判読は可能である。

製作年代は、木簡にあるとおり長祿三年（一四五九）と思われるが、これが井戸の築造年代である可能性もある。先述のとおり、風食が見られることから、井戸の周辺に一定期間置かれてあつたものであろう。遺構内での出土位置は底面から約1mであった。